

まちづくりの目標（都市像） ～10年後の長野市のめざす姿とは？～

資料2

1 都市像とは

地域づくりの方向性や地域の将来の姿を示すもので、地域づくりの意志を最も端的かつ効果的に表すもの。

- (1) 地域内外への両面性を配慮したものであること。
- (2) 地域づくりの可能性と夢を育むものであること。
- (3) 分かりやすさとインパクトのあるものであること。
- (4) 地域性、独自性豊かなものであること。

現在の都市像
- 五輪の感動を未来へ -
夢きらめく 交流とやすらぎのまち長野

2 長野市の姿

- (1) 人口
 - 360,112人（平成12年国勢調査結果（合併町村人口を含まない。）、全国671市中第49位）
 - 383,539人（平成17年12月1日現在の住民基本台帳に外国人登録を加えた人口）
- (2) 面積
 - 738.51km²（平成17年11月1日現在県内89市町村中2位）
- (3) 自然
 - ・中央部は千曲川の沖積地と犀川の扇状地等によって形成された肥沃な盆地に位置する都市
 - ・北部、西部及び南東部は山地や丘陵地が広がり、上信越高原国立公園をはじめとする山並みに抱かれた緑豊かな都市
 - ・合併により面積が1.8倍になり、中山間地が全体の7割を占める。
 - ・四季折々の特徴がはっきりしたさわやかな高原的気候
 - ・雄大な自然を身近に感じ、体験できる環境
- (4) 歴史・文化
 - ・善光寺を中心とした門前町として生まれ発展
 - ・川中島古戦場、松代城跡、戸隠など歴史や伝説を物語る史跡・文物に恵まれている
 - ・130点を数える野外彫刻や東山魁夷美術館などまちに潤いをもたらす文化施設が充実
 - ・オリンピック・パラリンピック開催を契機に世界の国々との交流が活発化
- (5) 社会・経済
 - ・県庁や官庁、公的施設が集中する行政都市であり、周辺諸地域の中核的存在（地方中核都市）
 - ・政令指定都市に次ぐ総合的機能を備えた中核市
 - ・上信越自動車道、北陸新幹線など交通基盤整備により、東京圏及び名古屋圏等の大都市と日本海沿岸地域を結ぶ拠点都市
 - ・冬季オリンピック・パラリンピックやスペシャルオリンピックスの開催を契機に、世界にNAGANOの名を発信
 - ・全国的な人口減少時代を迎え、三位一体改革に伴う地方交付税や国庫補助負担金の削減に加え、現下の社会経済情勢から市税の伸びは期待できない状況にあり、厳しい地方財政状況下にある。

3 最近の市行政における取り組みのキーワード

市民が主役、協働、長野ブランドの創造、選ばれる都市ながの、元気なまち、多軸都市、長野改革、民間活力の導入

4 市民の意識（元気なまちづくり市民アンケート）

長野市の将来の姿は？

- 1位 災害や事故・犯罪の少ない安全なまち
- 2位 高齢者、障害のある人、児童などへの福祉が充実したまち
- 3位 水や緑に囲まれた自然が豊かなまち

など

新しい都市像

?

第四次長野市総合計画

